

聖書：ルカの福音書 19:28～40
説教題：王であるイエス様
日時：2021年3月28日（朝拝）

「序論」

皆様、おはようございます。突然ですが iPhone、iPad、Macbook、Apple Watch など持っている人がいたら、手を上げてください。これらは全てアップルという会社でつくられていますね。品質がすごいと思いませんか？どの製品も質が高くないですか。たとえば iPhone。道に迷っている時にもアプリを開けば直ぐに正しい行き方が分かりますし、綺麗な写真も簡単に撮れますよね。何でもできる気がします。こんなに質の高いレベルのものを完成させるには大変な努力が必要だったに違いありません。Apple 社の設立者で iPhone や Macbook を開発したスティーブ・ジョブスは天才だと思います。おしゃれなデザイン、簡単に操作できるシンプルな作り、さらに購入した後何年も使える丈夫な製品ばかりを開発していきました。ジョブスは製品の見た目に相当なこだわりがあり、夢中になってそればかり考えました。そして時が経つにつれてジョブスの真面目な性格は変わってしまい、完璧主義になってしまいました。彼の完璧主義は彼の言動に大きな影響を与え始め、部下を怒鳴りつけたり残酷にあつかったりしたそうです。またある日仕事の時、女性社員の服装を見たジョブスは醜いドレスを着ていると彼女に言い放ちました。ジョブスは未完成で完璧さに欠けたものは受け入れられなかったのです。さらに彼のその主義は自分の健康にさえ影響を与えました。癌を患い、治療をしてもらっている時に酸素マスクと濃度モニターを身に付けるのを断りました。デザインが綺麗じゃないとジョブスは思ったからです。ジョブズの綺麗で完璧なコンピューターと iPhone を作りたいという強い思いは彼の生活の様々な面に影響を及ぼしました。

わたしは、先日ある記事を読みました。「人間は肉体の物質的 necessary に従わなければいけない」という記事です。わたしたちの体は物質的 necessary を満たさないといけないと書いてあります。例えば私たちの体は食べ物が必要ですね。もし何も食べないとやがて飢えて死んでしまいます。でも人間の物質的 necessary を満たすことが大事なように、精神的 necessary にも従わないといけません。私たちが健康に生きるためには生きがいや人生の目的を持つことが必要です。誰でも何か大切な事がありますよね。自分の仕事大切な人もいるし、家族、お金、安定した生活、社会的な地位、快適な暮らし、娯楽や快楽。いろいろ目指しているゴールがありますよね。

そしてその大切な事のためならなんでもしますよね。王様みたいな権力を持った人に従うより、自分にとって大切な欲求に従うのはいいでしょうか。私たちはしらずしらずに自分

にとって大切な物事に冠をかぶせて王様のように扱います。自分にとって大切なものならば、快く私たちの上に君臨するのを許します。ジョブスは完璧なコンピューターと iPhone を作ることに冠を被せたのではないのでしょうか。ジョブスの話のように、求めている物事は私たちに大きな影響を与え、時々私たちの振る舞いが変わっていきます。求めているものに心を奪われ、直ぐ怒ることもあるし他の人に思いやりを持って接してあげないこともありますね。知らない間に自分にとって大切な物事が気になっている唯一のものになって、その結果友達や家族と疎遠になってしまうこともあり得ると思います。大切なことを追い求めている途中、虚しい気持ちになるかもしれません。どうしてでしょうか。私たちは本来従うべきものではないものに、従っている可能性はありませんか？従う価値のあるものに、従うべきではないのでしょうか？

今日をもっとも従う価値のある人、すなわちイエスキリストについて話します。今日の箇所では王であるイエス様がどのようにエルサレムに入られたのか、というところに注目していきます。エルサレムへのイエス様の登場の仕方は人々が期待したものではありませんでした。みんなが期待する王様の華やかな登場の仕方とは違って、イエス様の登場スタイルはものすごく地味でした。最初のポイントはイエス様は普通の王様じゃなくて真の王様だということです。次に、イエス様が普通の王様の登場の仕方と比べて、どのように違ったのかを具体的に見ていきましょう。その後に、私たちが王であるイエス様にどうやって従い始めたらいいいのかを話してみたいと思います。

1。「真の王であるイエス様」

皆さん今日の箇所の1節をご覧ください。イエス様はエルサレムに向かう途中でザアカイと出会ったあと、エルサレムに向かってまた歩き始めました。そしてベテパゲとベタニアという街に着いた時、弟子の二人を近くの村に行かせました。どうしてかというとイエス様は子ロバを連れてきてほしかったんです。なぜこんな動物を選んだのでしょうか。すごく簡単にいうと、旧約聖書に書かれている預言を実現させるためです。旧約聖書には、真（まこと）の王様がいつかロバに乗ってやって来ると書かれていたんです。この預言はゼカリア書に記してあり、イエス様が誕生する500年前に書かれました。ゼカリア書9章9節を開いてみましょう。「娘・シオンよ、大いに喜べ。娘・エルサレムよ、喜び叫べ。見よ、あなたの王があなたのところに来る。義なる者で、勝利を得、柔和なもので、ロバに乗って。雌「め」ロバの子である、ロバに乗って。」わたしたちにとってこの箇所はすごく大切なんです。なぜかということこれは、「いつか自分たち全人類を救う神様がエルサレムの町にロバに乗ってやって来る」という預言ですから。だからイエス様は人々が500年も前から待ち望んでいる真の王様が自分だということをロバに乗って示す必要がありました。イエス様は聖書に書いてある預言を実現できる王であるということです。

でも予言を実現できるという理由だけでイエスが真の王様である訳ではないんです。この箇所を通してもう一つの理由を示しています。普通の王と違って、イエス様はこの世界で起こる全ての出来事を知っているし、その全てをコントロールできる王様なんです。30と31節をご覧ください。イエス様はこのロバがどこにいて、どの木につながれていて、まだ誰も乗っていないで、そしてどのように手に入れられるのか、全て知っていました。この世の全てを造られたのはイエス様ですから、全てご存知で全てのものを所有している王様、それがイエス様なんです。素晴らしいですね。31と34節をもう一度見てください。そして他の王様と違ってイエス様は過去も未来も全て知っている神様です。コロサイ人1章16節で「天と地にある全てのものは、見えるものも見えないものも、王座であれ主権であれ、支配であれ権威であれ、御子にあって造られたからです。万物は御子によって造られ、御子のために作られました。」と書いてあります。したがってイエス様がロバについて「主がお入り用なのです」と弟子に言うように命じた理由は、そのロバはイエス様の造られた動物でイエス様のものだからです。この箇所を通してイエス様がただの王様ではなくて、王の王である真の王様であることが分かります。まことの王であるイエス様は、綱がれていたロバから宇宙の星まで全てを造られたのです。だから全てのものがイエス様のものです。不思議なことにロバの飼い主たちは、弟子たちがイエス様の言ったことを伝えると、すぐにそれを受け入れました。マルコの福音書11章6節に「弟子たちが、イエスの言われた通りに話すと、彼らは許してくれた」と書いてあります。

皆さん、わたしはイエス様が真の王様であることについて話してきましたが、でもどうしてそれが大切なポイントかわかりますか。どうしてかというとながら私たちが従っているものの全てが真の王様じゃないからなんです。聖書によるとイエス様は創り主として何もない状態から全てのものを造られたので、この世の全ての物を従える真の王様として君臨しています。でもわたしたちはこの真の王様、すなわちイエス様という創り主ではなくて、イエス様が造られた「創造物」に冠を被らせて従う傾向があります。わたしたち人間の問題のほとんどは、創り主じゃなくて創造物に従っていることから生じた結果です。全て造られたものには、期限や寿命があり、いつか無くなったり、変わったりしてしまいます。私たちは永遠に存在し、変わらないものではなく、すぐに散っていくもの、「諸行無常」のものに従っているから、いつまでも真の平安が手に入りません。でもイエス様こそが真の王様、すなわち永遠に変わらない王様だから、自信を持って従えば心は満たされるのです。

2. 「弱い王であるイエス様」

私の二つ目のポイントはイエス様は弱い王様です。びっくりした人もいるかもしれませんが、イエス様は弱い王様として来たんです。え？ジェフさん何言ってんの？？と思った

あなたのために、説明をさせていただきます。皆さん想像してほしいんですが、イエスは弟子と一緒にいて皆に自分の登場の仕方を話し始めます。弟子たちは期待してワクワクしていたことでしょう。「やった。ついにイエスのすごさを世間に見せつける時がきた。イエス様はどんな登場の仕方、エルサレムの人々をおどろかせるんだらう」とイエス様が言いました。「さあ、このロバに乗って行きましょう。」「え、ロバに？イエス様、子供じゃあるまいし。こんな動物に乗るなんてかっこわるいですよ。」皆さんどうですか？たしかに王様として登場するなら、かっこいい血筋のいい馬、大きな強い軍馬に乗った方がしっくりきますよね。「イエスさま、ロバなんかに乗って登場するなんて皆に間違った印象を与えるじゃないでしょうか。」でもイエス様はロバに乗って登場することがエルサレムの人たちにどんな印象を与えるかよく知っていました。イエス様は普通の王と違ってエルサレムに、ゆったりとした、牙も角もないロバに乗って登場します。ロバを選んだのはもちろん昔の予言を実現させるためですが、「平和」というメッセージを伝えるためでもあったのです。ロバは平和の象徴であったので、イエス様の選んだ動物は適切でした。もしイエス様が立派な馬に乗って来て、ローマ人を殺したり政府を倒したりしたら、きっと平和は続かなかったでしょう。平和がいつまでも続くためにイエス様は弱い王様として登場しました。イエス様は強い王様としてローマ帝国を倒すためではなく、弱い王様として十字架で倒されるために来ました。イエス様は皆に罰を与えるのではなく、罰を受けるためにやってきたのです。強い軍隊を築き上げ、国が繁栄することが王としての成功なのに、十字架で死ぬという行為は王として失敗だと思いませんか？でもお多くの人々は知らなかったんです。イエス様の十字架の死を通して、真の平和がわたしたちに与えられたんです。人類は罪を犯し神様との関係を壊してしまいました。私たちの罪が許されるためには、いけにえが必要でした。イエス様は弱い王様として来てご自分の人生を捧げたのです。弱い王様として来たからこそ、イエス様は本当に罪と死を終わりにすることができました。

わたしたちの仕事、お金、家族には、罪を許せる力が全くないんですね。もし仕事で失敗すれば、取引先に迷惑をかけ会社に損失を出してくびにされてしまうかもしれません。でも王であるイエス様に対して、私たちがまちがいを犯しても、イエス様は何度でも私たちが許してくれます。どうしてでしょうか。イエス様は愛ですから。一生を捧げられる物の中で、私たちが許し続けられる人は、イエス様だけです。わたしたちが従っている物の中で私たちが責めないのはイエス様だけです。なぜかというとイエス様は弱い王ですから。私たちの罪に対する罰を受けてくださるためにイエス様は弱い王として来てくださったのです。

3。「イエス様は輝かしい王様」

イエスは真の王様です。イエスは弱い王様です。そして最後のポイントはイエス様は輝かしい王様でもあるということです。36節をご覧ください。「イエスが進んでいかれると、人々は道に自分たちの上着を敷いた。」人々はイエス様が一体どんな方かということを知っていましたから。だから、王であるイエス様に対する敬意を表し、迎えたのです。でもそれだけじゃなくて、37節によると「大勢の弟子たちは皆、自分たちが見た全ての力あるわざについて、喜びのあまりに大声で神を賛美し始めて」と書いてあります。今までイエスは嵐を止めたりいろいろな病気を癒したりしました。さらに亡くなった人も生き返らせましたね。なぜイエスはこういう奇跡を行うことができたのでしょうか？わかりますか？イエス様はただの普通の王様じゃなくて、真の王であり、神様だからです。嵐、病気、死よりもイエス様の方が強いということを知って感動したみんなは、大声でイエス様のことをたたえ始めました。38節をご覧ください。「祝福あれ、主の御名によって来られる方、王に。天には平和があるように。栄光がいと高き所にあるように。」と書いてあります。イエス様の行なった奇跡を通して人々はイエス様は神様であることが分かり、イエス様こそが冠を被る王だと思ったのです。でも群衆の中にはあまりイエス様の事を歓迎していない人もいました。この人たちはその時代のリーダーたちだったんです。パリサイと呼ばれていました。そしてこの人たちはイエス様と群衆の様子を見て怒ってしまいました。なぜかというと、（まあ、色々な理由がありますが、）えー、簡単にいうとイエス様が色々なことを教えたりたくさん奇跡を行って人気者になっていたからです。リーダーたちはそれが気に入らなかったのが非常に怒ってました。だから、39節によるとそのリーダーたちは、イエス様に向かって「先生、あなたの弟子達を叱ってください」と人々を黙らせるように願いました。でもイエス様は40節で答えられました。「私は、あなた方に言います。もしこの人たちが黙れば、石が叫びます。」へええ、石が叫びます？どう言う意味でしょうか？それは、もし人びとが黙って褒め称えることを辞めたら、周りのものが生物じゃなくてもイエス様を褒め称え始めるということです。どうしてでしょうか？どうしてかということこの王、すなわちイエス様は、普通の王じゃなくて人間だけでなく全てのものが褒め称える輝かしい王様だからです。黙示録4章によると、イエス様は栄光と誉と力を受けるにふさわしい方で万物を創造されました。それに、御心のゆえに、それらは存在し、また創造されたのですと書いてあります。

「結論」

皆さん、今日の話が終わる前に王であるイエス様についてもう一つの事を簡単に話してみたいと思います。イエスは真の王様であり、弱い王様であり、輝かしい王様であるだけでなく私たちに迎えてくださる王様です。王であるイエス様のところに来る人は誰でも歓迎されます。なぜかというと、イエス様はもう皆のために世に来たからです。イエス様

はもともと天国にいました。でも私たちを救うために天国を出て私たちのところにきました。わたしたちが従っている、仕事、お金、家族などのものによっては、私たちはいつまでも真の平安を手に入れることができないし、完全に満たされることができないということをイエス様はもうご存知だったので、私たちのところへ来てくださいました。私たちの従っているものは全て真の王様ではありません。真の王様に従ってこそ、真の平安が与えられます。完全に満たされることもできます。もしこの王様に従いたいと思うなら、大歓迎されます。もし何回も自分の失敗を許してくださる王様に従いたいなら大歓迎されます。そして人生に希望をもたらし、永遠の命の希望をもたらす王に従いたいなら、大歓迎されます。イエス様はこう言いました。「私の元に来るものを、私は決して外に追い出したりはしません。私は彼らに永遠の命を与えます。彼らは永遠に、決して滅びることがなく、また、誰も彼らを私の手から、奪い去りません。」お祈りしましょう。